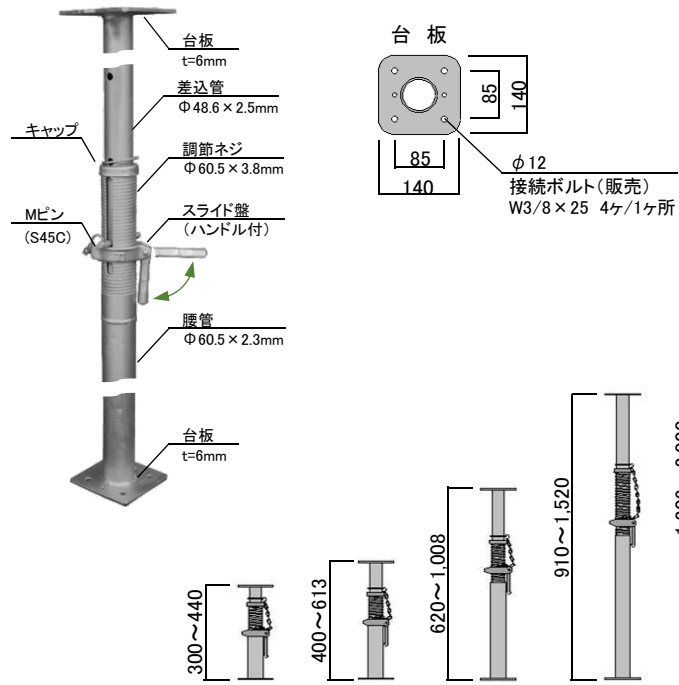


特 長

- 1) 仮設工業会の認定基準を上回り、安定した強度が得られます。
- 2) スライド盤はダクタイト(FCD-400) 支持ピンは機械構造用炭素鋼S45Cを使用しております。スライド盤、支持ピンが破損することは有りません。

使用上の注意

- 1) パイプサポートを接続する場合には、専用クランプを使い水平つなぎ、大筋違を設けて下さい。
- 2) 台板(ベースプレート)には一様に荷重をかけ、偏心荷重にならないようにして下さい。
- 3) 凹み、曲り等の変形の生じたものは使用しないで下さい。
- 4) 現場で修理、改造はしないで下さい。
- 5) 木製の支柱等は強度が一定しないので、併用しないで下さい。
- 6) 沈下を起こさない堅固な場所に設置して下さい。



溶融亜鉛メッキ

◆ 許容支持力

材端条件	連けい有り	連けいなし 使用高さ			
		2.0m以下	2.0m~2.5m	2.5m~3.0m	3.0m~3.4m
上下端 木材	19.6 kN	19.6 kN	17.6 kN	13.7 kN	9.8 kN
上端 木材 下端 仕上げコンクリート	19.6 kN	19.6 kN	18.6 kN	16.7 kN	14.7 kN

「連けい有り」とは高さ2m以内毎に緊結金具でX、Y方向に水平つなぎを取付けること。補助サポートをパイプサポートの上端に使用する場合、接続部付近を水平つなぎ等で連けいする。その場合の許容支持力は19.6 kNとする。

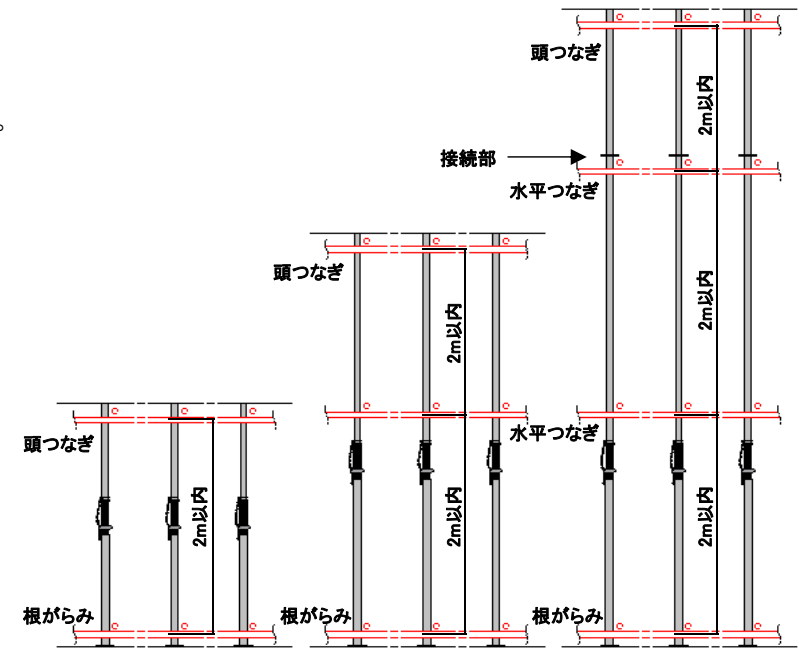
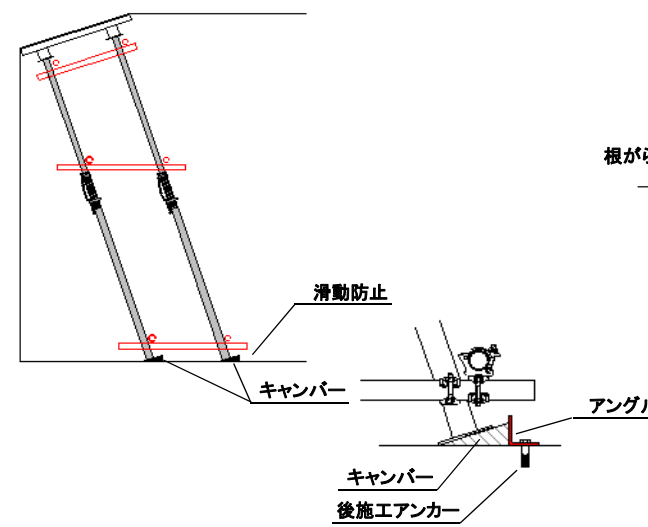
以上は仮設工業会の「型わく支保工・足場工事 計画作成参考資格研修テキスト」に記載のものです。テキストには、「鉛直荷重の5%に相当する荷重を水平荷重として考慮する」とあります。水平荷重に抵抗するには、水平つなぎを設け堅固な物に突き当てるか、大筋違を設けることが必要となります。

◆ 水平つなぎ

- 1) 「水平つなぎ」は右の図の根がらみ、頭つなぎ、水平つなぎの総称です。
- 2) 水平つなぎには単管パイプとクランプを用います。
- 3) 水平つなぎは各段ともにX、Y方向に設けます。
- 4) 水平つなぎの上下間隔は2m以内です。
- 5) サポートの接続部付近には必ず水平つなぎを設けて下さい。
- 6) 水平つなぎの変位防止をして下さい。端部を堅固な物に突き当てる。大筋かいを設ける等々。

◆ 斜めに設置する場合

脚部にキャンバーを用い、滑動防止を施す。



◆ 使用前点検

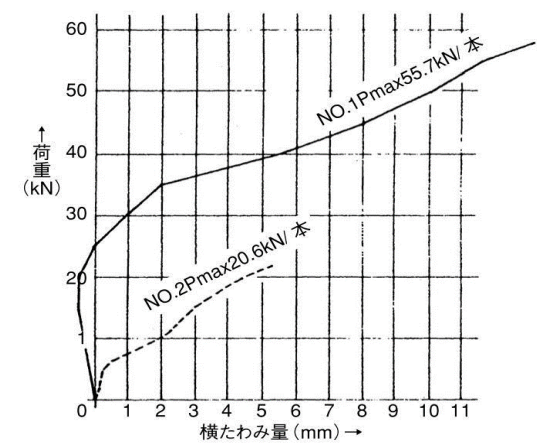
パイプサポートを使用点検として以下の事を確認して下さい。

- 1) 台板(ベースプレート)の曲り、欠損がないか
- 2) パイプに曲り、凹み、傷がないか
- 3) ピンに曲り、折れ、欠損がないか
- 4) ネジ管に傷はないか
- 5) 部品に欠品がないか
- 6) 改造、溶接跡、火傷がないか

異常のある物は使用しないこと

荷重-横たわみ線図

パイプサポート (AM-90+AM-1.2) H-5.0m

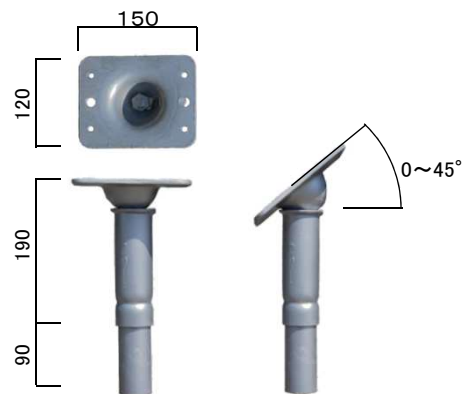


労働省産業安全研究所試験

- NO.1 高さ2M以内ごとに直角2方向に水平つなぎ設け且つ変位防止のための筋かいを取付けたときの最大荷重 (kN)
- NO.2 水平つなぎ及び筋かいを取付けない時の最大荷重 (kN)

ピボット A 4.1 kg

パイプサポートの上中管に差し込み、勾配に対応します。



サポートクランプ

直交 KM-605D 0.86 kg

自在 KF-605D 0.86 kg



φ 60.5 × φ 48.6, 42.7 兼用



φ 60.5 × φ 48.6, 42.7 兼用

下柱管(腰管)に水平つなぎ、大筋違を設けるために使用します。上柱管(差込管)には通常の兼用クランプが使用できます。